

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6933044号
(P6933044)

(45) 発行日 令和3年9月8日 (2021.9.8)

(24) 登録日 令和3年8月23日 (2021.8.23)

(51) Int.Cl.	F 1
B 4 2 F 7/06 (2006.01)	B 4 2 F 7/06
B 4 2 F 7/00 (2006.01)	B 4 2 F 7/00 E
B 4 2 F 5/04 (2006.01)	B 4 2 F 5/04 A

請求項の数 5 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2017-157807 (P2017-157807)	(73) 特許権者	000001351
(22) 出願日	平成29年8月18日 (2017.8.18)		コクヨ株式会社
(65) 公開番号	特開2019-34488 (P2019-34488A)		大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
(43) 公開日	平成31年3月7日 (2019.3.7)	(74) 代理人	100085338
審査請求日	令和2年7月31日 (2020.7.31)		弁理士 赤澤 一博
		(72) 発明者	扶川 祥平
			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内
		審査官	藤井 達也

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ファイル

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

背紙と、この背紙を保持し得る背紙保持部が設けられた表紙と、この表紙に止着され袋状に形成されたポケットシートとを備えてなるファイルであって、
前記背紙保持部に、綴じ孔として使用され得る孔が設けられており、
前記背紙が、背紙本体と、前記孔に重なる部分を有した離脱可能片を備えており、前記離脱可能片が前記背紙本体から離脱可能に構成されているファイル。

【請求項 2】

前記背紙保持部が、外側シートと、この外側シートの内側に配された内側シートとを備えたものであり、前記背紙が、前記外側シートと前記内側シートの間に挟まれて保持されるものであり、前記外側シート及び前記内側シートに、前記孔が相互に連通し得るように設けられており、
前記内側シートが、前記表紙における前記外側シートと重なり合う部分である請求項 1 記載のファイル。

【請求項 3】

略矩形状をなす表表紙と、略矩形状をなす前記表紙である裏表紙とを備えてなるものであり、
前記表表紙と前記裏表紙が、当該表表紙及び裏表紙の外面に取り付けられた前記外側シートを介して連結されているものであり、
前記内側シートが、前記裏表紙における前記外側シートと重なり合う部分、及び、前記表

10

20

表紙における前記外側シートと重なり合う部分である請求項 2 記載のファイル。

【請求項 4】

前記表紙の内側端縁と前記裏表紙の内側端縁との間に、前記背紙保持部の内部に前記背紙を挿入し得る背紙挿入口が形成されている請求項 3 記載のファイル。

【請求項 5】

前記離脱可能片が切断ガイド線を介して前記背紙本体に接続したものであり、前記切断ガイド線を切断することにより、前記離脱可能片が前記背紙本体から離脱可能に構成されている請求項 1、2、3 又は 4 記載のファイル。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、オフィス等において好適に使用されるファイルに関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、袋状に形成されたポケットシートを備えたファイルが種々知られている（例えば、特許文献 1 を参照）。

【0003】

ところで、上掲したようなファイルの所定箇所にパンチ孔を設けるようにすれば、ファイルそれ自体を種々の綴じ具又は種々の綴じ具を備えた他のファイルに保持させることも可能となる。

20

【0004】

ところが、ファイルが背紙を備えている場合には、背紙を外してから当該ファイルを綴じ具又は綴じ具を備えた他のファイルに保持させなければならないという不具合がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3139118 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

30

本発明は、以上のような事情に着目してなされたもので、背紙を外すことなく綴じ具や綴じ具を有した他のファイルに好適に支持され得るように構成されたファイルを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

すなわち、本発明は次の構成をなしている。

【0008】

請求項 1 に記載の発明は、背紙と、この背紙を保持し得る背紙保持部が設けられた表紙と、この表紙に止着され袋状に形成されたポケットシートとを備えてなるファイルであって、前記背紙保持部に、綴じ孔として使用され得る孔が設けられており、前記背紙が、背紙本体と、前記孔に重なる部分を有した離脱可能片を備えており、前記離脱可能片が前記背紙本体から離脱可能に構成されているファイルである。

40

【0009】

請求項 2 に記載の発明は、前記背紙保持部が、外側シートと、この外側シートの内側に配された内側シートとを備えたものであり、前記背紙が、前記外側シートと前記内側シートの間に挟まれて保持されるものであり、前記外側シート及び前記内側シートに、前記孔が相互に連通し得るように設けられており、前記内側シートが、前記表紙における前記外側シートと重なり合う部分である請求項 1 記載のファイルである。

【0010】

請求項 3 に記載の発明は、略矩形状をなす表紙と、略矩形状をなす前記表紙である裏

50

表紙とを備えてなるものであり、前記表表紙と前記裏表紙が、当該表表紙及び裏表紙の外面上に取り付けられた前記外側シートを介して連結されているものであり、前記内側シートが、前記裏表紙における前記外側シートと重なり合う部分、及び、前記表表紙における前記外側シートと重なり合う部分である請求項 2 記載のファイルである。

【0011】

請求項 4 に記載の発明は、前記表表紙の内側端縁と前記裏表紙の内側端縁との間に、前記背紙保持部の内部に前記背紙を挿入し得る背紙挿入口が形成されている請求項 3 記載のファイルである。

10

【0012】

請求項 5 に記載の発明は、前記離脱可能片が切断ガイド線を介して前記背紙本体に接続したものであり、前記切断ガイド線を切断することにより、前記離脱可能片が前記背紙本体から離脱可能に構成されている請求項 1、2、3 又は 4 記載のファイルである。

【発明の効果】**【0013】**

以上説明したように本発明によれば、背紙を外すことなく綴じ具や綴じ具を有した他のファイルに好適に支持され得るように構成されたファイルを提供することができる。

【図面の簡単な説明】**【0014】**

20

【図 1】本発明の一実施形態を示す斜視図。

【図 2】同実施形態における展開状態の内面側を示す斜視図。

【図 3】同実施形態における展開状態の外側面側を示す斜視図。

【図 4】同実施形態における背紙を説明するための展開図。

【図 5】同実施形態における背紙を説明するための展開図。

【図 6】同実施形態における展開状態の内面側を示す正面図。

【図 7】図 6 における X-X 線断面図。

【図 8】図 6 における Y 部分拡大図。

【図 9】同実施形態における一使用例を説明するための斜視図。

【図 10】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

30

【図 11】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 12】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 13】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 14】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 15】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 16】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【図 17】他の実施形態である背紙を説明するための展開図。

【発明を実施するための形態】**【0015】**

以下、本発明の一実施形態を、図 1～9 を参照して説明する。

40

【0016】

この実施形態は、本発明を、複数枚のポケットシート P を備えてなるファイル A に適用したものである。

【0017】

このファイル A は、それ自体を独立した状態で使用することができるのはもちろんのことであるが、図 9 に示す使用例に示すように、綴じ具 E を有した他のファイル J に支持され得るように構成されている。換言すれば、他のファイル J における綴じ具 E の綴じ桿 e1 を、本発明であるファイル A の孔 h1、h2、h3 に挿通させた状態においても、当該ファイル A は収容機能を損ねることなく使用することが可能なものとなっている。

【0018】

50

なお、図9はファイルAが他のファイルJに支持された一例を示したものにすぎない。すなわち、本実施形態のファイルAは、図9とは異なる綴じ具を有した種々のファイルに支持され得るものであるし、表紙等を備えていない種々の綴じ具にも支持され得るものである。

【0019】

ファイルAは、見出しとして機能し得る背紙Bと、この背紙Bを保持し得る背紙保持部Hが設けられた表表紙1及び表紙である裏表紙2と、裏表紙2の内面に溶着により止着され袋状に形成された複数のポケットシートPとを備えてなるものである。表表紙1と裏表紙2は、当該表表紙1及び裏表紙2の外面に溶着により取り付けられた外側シート3を介して連結されている。表表紙1の内側端縁1eと裏表紙2の内側端縁2eとの間には、背紙保持部Hの内部に背紙Bを挿入し得る背紙挿入口gが形成されている。背紙挿入口gは、上下方向に延びたスリット状をなしている。

10

【0020】

以下、このファイルAについて詳述する。

【0021】

背紙Bは、外面に文字等を記入し得る紙製のものである。背紙Bは、図4及び図5に示すように、展開状態において上下方向に長い略矩形状をなしている。背紙Bは、展開状態における左右方向中央部に上下方向に直線状に延びる折り曲げ線fを備えている。背紙Bは、外側シート3の内面に添接するとともに表表紙1の外側側面を覆う表側領域b11と、外側シート3の内面に添接するとともに裏表紙2の外側側面を覆う裏側領域b12とを備えている。表側領域b11と裏側領域b12は、折り曲げ線fを境界にして左右に設けられている。背紙Bは、外面に文字等が記載される主要部分となる背紙本体b1と、外側シート3と表表紙1と裏表紙2にそれぞれ設けられた孔h3、h1、h2に重なる部分を有した離脱可能片b2を備えている。

20

【0022】

背紙Bは、離脱可能片b2が背紙本体b1から離脱可能に構成されている。この実施形態では、離脱可能片b2が展開状態における背紙本体b1の上下方向及び左右方向の中央に配された縦長の略長形状をなしている。離脱可能片b2は、切断ガイド線sを介して背紙本体b1に接続したものとなっている。切断ガイド線sは、間欠的に設けられた複数のスリットにより構成されている。切断ガイド線sは、いわゆる「ミシン目」と称されるものである。そして、切断ガイド線sを切断することにより、離脱可能片b2が背紙本体b1から離脱可能に構成されている。離脱可能片b2が離脱した後の背紙本体b1は、展開状態において、矩形輪状をなしており中央部に矩形状の連通部b1aが形成されている。なお、この実施形態のガイド線sは、展開状態における四ヶ所の角部に設けられた同一長さの湾曲スリットs1と、湾曲スリットs1の間に複数配された同一長さの直線スリットs2とを備えている。離脱可能片b2が背紙本体b1から離脱した後は、図5及び図9に示すように、他のファイルJの綴じ具EにファイルAが支持されている状態において、背紙本体b1に、他のファイルJにおける綴じ具Eの綴じ桿e1が通過可能な連通部b1aが形成されることになる。なお、図1及び図9では、説明の便宜上、背紙Bを色塗りして表示している。

30

40

【0023】

表表紙1は、合成樹脂により作られた矩形シート状のものである。表表紙1は、背紙Bが位置する領域に綴じ孔として使用され得る複数の（二つの）孔h1を有している。二つの孔h1は上下に所定の間隔をあけて設けられている。これらの孔h1は、パンチ孔とも称されるものであり、丸孔状をなしている。

【0024】

表紙である裏表紙2は、合成樹脂により作られた矩形シート状のものである。裏表紙2は、背紙Bが位置する領域に綴じ孔として使用され得る複数の（二つの）孔h2を有している。二つの孔h2は上下に所定の間隔をあけて設けられている。これらの孔h2は、パンチ孔とも称されるものであり、丸孔状をなしている。裏表紙2の厚み寸法が、表表紙1

50

の厚み寸法よりも長く設定されている。換言すれば、裏表紙 2 は表表紙 1 よりも厚く設定されている。

【0025】

外側シート 3 は、表表紙 1 及び裏表紙 2 と協働して背紙 B を保持し得る背紙保持部 H を構成するものである。外側シート 3 は、背紙 B に示された文字や図形等が外部から視認され得るように透光性を有しているものであり、この実施形態では透明のものである。外側シート 3 は、表表紙 1 と重なる領域である表側領域 3 1 と、裏表紙 2 と重なる領域である裏側領域 3 2 とを備えている。外側シート 3 は、展開状態において上下方向に延びた略矩形状をなしている。図 3 に示すように、外側シート 3 における外周縁の略全域が、表表紙 1 及び裏表紙 2 の外面に溶着されている。換言すれば、外側シート 3 の外周縁には、表表紙 1 の外面及び裏表紙 2 の外面に溶着された溶着部 t が設けられている。外側シート 3 は、綴じ孔として使用され得る複数の（二つの）孔 h 3 を有している。二つの孔 h 3 は上下に所定の間隔をあけて設けられている。これらの孔 h 3 は、パンチ孔と称されるものであり、丸孔状をなしている。外側シート 3 は、その展開状態における左右方向中央部、すなわち、表側領域 3 1 と裏側領域 3 2 との境界部分に折り線部 3 a を備えている。折り線部 3 a は、ファイル A が閉じた状態をとる際に折り曲げられる部分となる。

10

【0026】

背紙挿入口 g を臨む表表紙 1 の内側端縁 1 e と裏表紙 2 の内側端縁 2 e には、所定の位置に凹陷部 1 k、2 k が設けられている。表表紙 1 及び裏表紙 2 に凹陷部 1 k、2 k を設けることにより、表表紙 1 及び裏表紙 2 の各内側端縁 1 e、2 e には、手指によってめくりやすい突出片状の指掛け部分 1 y、2 y が形成されることになる。すなわち、表表紙 1 及び裏表紙 2 の凹陷部 1 k、2 k は、背紙挿入口 g を通して背紙 B を背紙保持部 H に挿入しやすくさせている。

20

【0027】

背紙保持部 H は、背紙 B を保持し得る部位である。背紙保持部 H は、外側シート 3 と、この外側シート 3 の内側に配された内側シートすなわち表表紙 1 における外側シート 3 と重なり合う部分 1 a 及び裏表紙 2 における外側シート 3 と重なり合う部分 2 a である。背紙保持部 H は、背紙 B を、外側シート 3 と表表紙 1 の一部分 1 a、及び、外側シート 3 と裏表紙 2 の一部分 1 a との間に挟むことにより保持し得るものとなっている。

【0028】

外側シート 3、表表紙 1、及び、裏表紙 2 には、それぞれ綴じ孔として使用され得る孔 h 3、h 1、h 2 が相互に連通し得るように設けられている。つまり、外側シート 3 には、複数箇所（四箇所）に綴じ孔として使用され得る孔 h 3 が設けられている。外側シート 3 には、表表紙 1 と重なる領域である表側領域 3 1 に、上下方向に所定の間隔をあけて二つの孔 h 3 が設けられている。外側シート 3 には、裏表紙 2 と重なる領域である裏側領域 3 2 に上下方向に所定の間隔をあけて二つの孔 h 3 が設けられている。外側シート 3、表表紙 1、及び、裏表紙 2 に設けられた各孔 h 3、h 1、h 2 には、例えば、綴じ具 E の綴じ桿 e 1（図 9 を参照）や他の綴じ具の綴じ足（図示せず）が連通し得るようになっている。

30

【0029】

ポケットシート P は、合成樹脂製のものである。ポケットシート P は、フィルム素材を用いて袋状に形成されている。ポケットシート P は、内部に収容物である用紙 D を収容し得る収容空間 s p を有している。なお、収容物は用紙 D に限られるものではないし、材質や形状を問わない。この実施形態では、収容空間 s p には、主として、用紙 D 等に代表される矩形シート状の収容物が収容され得るものとなっている。ポケットシート P は、縦長の長方形形状をなしている。ポケットシート P における内側端縁 p e は、上下方向に略直線状に延びてなる溶着部 c において裏表紙 2 の内面側に止着されている。

40

【0030】

ポケットシート P は、上端部に開口部 k を有するとともに内部に収容空間 s p を形成してなるポケットシート本体 p 1 と、ポケットシート本体 p 1 の内側端縁 p e に当該ポケッ

50

トシート本体 p 1 と裏表紙 2 とを接続するべく形成された溶着部 c とを備えている。

【0031】

ポケットシート本体 p 1 は、A 4 サイズの用紙 D を収容空間 s p 内に収容し得る大きさに設定されている。

【0032】

溶着部 c は、ポケットシート本体 p 1 を溶着手段（図示せず）により裏表紙 2 の内面に溶着した結果、ポケットシート本体 p 1 の内側端縁 p e に形成されている。溶着部 c は、ポケットシート本体 p 1 における内側端縁 p e 側から外側端縁 p g 側に向かって凹んでなる凹部 c 2 を有している。裏表紙 2 に形成された孔 h 2 の少なくとも一部は、凹部 c 2 に囲まれた領域 r 内に位置するように設定されている。この実施形態では、裏表紙 2 に形成された孔 h 2 の略半分が凹部 c 2 に囲まれた領域 r 内に位置するように設定されている。

10

【0033】

溶着部 c は、複数の溶着点 c 1 を備えている。溶着部 c は、複数の溶着点 c 1 が間隔をあけて上下方向に延びた仮想直線 L 上に沿って配列されている。そして、複数の溶着点 c 1 の内、特定の溶着点 c 1 の間に凹部 c 2 が配設されている。

【0034】

凹部 c 2 は、図 8 の拡大図に示すように、上辺部分 c 2 1 と、上辺部分 c 2 1 と略平行をなす下辺部分 c 2 2 と、上辺部分 c 2 1 の一端と下辺部分 c 2 2 の一端とを繋ぐように上下方向に延びた側辺部分 c 2 3 とを備えてなるものである。この実施形態では、上辺部分 c 2 1、下辺部分 c 2 2、及び、側辺部分 c 2 3 が、裏表紙 2 に対して溶着されている。

20

【0035】

以上説明したように、本実施形態に係るファイル A は、背紙 B と、この背紙 B を保持し得る背紙保持部 H が設けられた表紙である表表紙 1 及び裏表紙 2 と、裏表紙 2 に止着され袋状に形成されたポケットシート P とを備えてなる。そして、背紙保持部 H が、外側シート 3 と、この外側シート 3 の内側に配された内側シートである表表紙 1 及び裏表紙 2 とを備えている。背紙 B が、外側シート 3 と表表紙 1 及び裏表紙 2 の間に挟まれて保持されるものであり、外側シート 3、表表紙 1 及び裏表紙 2 に、綴じ孔として使用され得る孔 h 3、h 1、h 2 が相互に連通し得るように設けられている。背紙 B が、背紙本体 b 1 と、孔 h 1、h 2、h 3 に重なる部分を有した離脱可能片 b 2 を備えており、離脱可能片 b 2 が背紙本体 b 1 から離脱可能に構成されている。このため、背紙 B を外すことなく綴じ具や綴じ具を有した他のファイルに好適に支持され得るように構成されたファイル A を提供することができるものとなる。つまり、背紙 B が孔 h 1、h 2、h 3 に重なる部分を有した離脱可能片 b 2 を備えているものであるため、使用者は離脱可能片 b 2 を背紙本体 b 1 から離脱させれば、各孔 h 1、h 2、h 3 を無理なく連通させることができる。このため、ファイル A それ自体を背紙本体 b 1 は残しつつ、綴じ具や綴じ具を有した他のファイルに好適に支持させることができるものとなっている。

30

【0036】

表表紙 1 における外側シート 3 と重なり合う部分 1 a が、内側シートを構成しており、裏表紙 2 における外側シート 3 と重なり合う部分 1 a が、内側シートを構成している。このため、背紙 B を見出しとして使用し得る適切な箇所に設けることができるものとなる。

40

【0037】

略矩形状をなす表表紙 1 と、略矩形状をなす裏表紙 2 とを備えてなるものであり、表表紙 1 と裏表紙 2 が、当該表表紙 1 及び裏表紙 2 の外面に取り付けられた外側シート 3 を介して連結されている。このため、背紙 B を見出しとして使用し得る適切な箇所に設けることができるものとなるだけでなく、外側シート 3 によって表表紙 1 及び裏表紙 2 を接続する目的とともに背紙保持部 H を設ける目的を一挙に果たしたものとなっている。

【0038】

表表紙 1 の内側端縁 1 e と裏表紙 2 の内側端縁 2 e との間に、背紙保持部 H の内部に背紙 B を挿入し得る背紙挿入口 g が形成されている。このため、背紙 B を、表表紙 1 及び裏

50

表紙 2 の内面側から好適に挿入し得るものとなっている。

【0039】

裏表紙 2 の厚み寸法が、表表紙 1 の厚み寸法よりも長く設定されている。このため、使用者が表表紙 1 を軽快に操作し得るものとなっているとともに、裏表紙 2 はポケットシート P が溶着され得る必要な強度や合成を設定しやすいものとなっている。

【0040】

外側シート 3 における外周縁の略全域が、表表紙 1 又は裏表紙 2 の外面に溶着されている。このため、挿入された背紙 B は、背紙保持部 H 内から外部に出にくいものとなっている。

【0041】

離脱可能片 b 2 が切断ガイド線 s を介して背紙本体 b 1 に接続したものであり、切断ガイド線 s を切断することにより、離脱可能片 b 2 が背紙本体 b 1 から離脱可能に構成されている。このため、離脱可能片 b 2 を背紙本体 b 1 から離脱させる作業を好適に実施し得るものとなる。

【0042】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0043】

表紙は、裏表紙に限られるものではなく、表表紙であってもよい。また、ファイルの表紙は、表表紙及び裏表紙の何れか一方だけを備えたものであってもよい。

【0044】

ポケットシートは、必ずしも複数備えたものでなくともよく、単数であってもよい。

【0045】

背紙保持部は、綴じ孔として使用される孔が設けられているものであればよい。つまり、背紙保持部は、内側シート及び内側シートを含んだものに限られるものではなく、例えば、単一のシート状のものであってもよい。

【0046】

内側シートは、表表紙や裏表紙の一部ではなく、他のシート状の部材により構成されたものであってもよい。

【0047】

外側シートや表表紙や裏表紙に綴じ孔として使用され得る孔は、単数であってもよいし、二以上の複数であってもよい。

【0048】

背紙は種々の態様を採用することができる。背紙は、テープや接着剤等の接着手段を利用して背紙保持部に取り付けるとしてもよい。また、背紙の裏側に粘着層を設けるようにしてもよい。このとき、離脱可能片には粘着層を設けず、背紙本体の裏側のみに粘着層を設けるようにすれば、離脱可能片を任意に切り離すことができるため好適である。

【0049】

離脱可能片は、背紙本体から離脱可能に構成されていればよい。換言すれば、離脱可能片は、切断ガイド線を介して背紙本体から離脱するものに限られない。例えば、離脱可能片が背紙本体に対して剥離可能に設けられたものであってもよい。

【0050】

背紙における離脱可能片の形状や、切断ガイド線の態様については、適宜のものを採用することができ、上述した実施形態に示したものに限定されるものではない。

【0051】

以下、変形例である背紙 B について、図 10～17 を参照して説明する。なお、各図において、上述した実施形態に示したものと同一又は対応する構成のものについては、同一の符号を付して説明を省略する。

【0052】

図 10 に示す背紙 B は、展開状態の背紙本体 b 1 における上下方向及び左右方向の中央部に、切断ガイド線 s を介して単一の縦長長方形をなす離脱可能片 b 2 が設けられたも

10

20

30

40

50

のである。同実施形態における切断ガイド線sは、上述した実施形態に示したものよりも短い寸法に設定された複数の直線スリットs2を主体に構成されている。

【0053】

図11に示す背紙Bは、展開状態の背紙本体b1における表側領域b11及び裏側領域b12のそれぞれに、切断ガイド線sを介して上下方向に延びた帯状の離脱可能片b2が設けられたものである。同実施形態の切断ガイド線sは、上端部及び下端部に設けられた半円弧状をなす半円弧スリットs3と、これら上端部及び下端部に位置する半円弧スリットs3間に設けられた同一寸法をなす複数の直線スリットs2を備えたものである。

【0054】

図12に示す背紙Bは、展開状態の背紙本体b1における表側領域b11及び裏側領域b12の各上下二箇所に、切断ガイド線sを介して円形状の離脱可能片b2が設けられたものである。各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3に合致する位置に設けられている。同実施形態の切断ガイド線sは、同一寸法に設定された複数の湾曲スリットs1により構成されている。なお、各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3よりも大きく設定されている。

【0055】

図13に示す背紙Bは、図12に示すものと同様に、展開状態の背紙本体b1における表側領域b11及び裏側領域b12の各上下二箇所に、切断ガイド線sを介して円形状の離脱可能片b2が設けられたものである。各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3に合致する位置に設けられている。同実施形態の切断ガイド線sは、単一の半円弧スリットs3と、半円弧スリットs3よりも短寸に設定された複数の湾曲スリットs1により構成されている。半円弧スリットs3は、上側の離脱可能片b2における上部に設けられており、下側の離脱可能片b2における下部に設けられている。なお、各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3よりも大きく設定されている。

【0056】

図14に示す背紙Bは、図12に示すものと同様に、展開状態の背紙本体b1における表側領域b11及び裏側領域b12の各上下二箇所に、切断ガイド線sを介して円形状の離脱可能片b2が設けられたものである。各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3に合致する位置に設けられている。同実施形態の切断ガイド線sは、図12に示すものよりも長い寸法に設定され、且つ、同一寸法に設定された複数の湾曲スリットs1により構成されている。なお、各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3よりも大きく設定されている。

【0057】

図15に示す背紙Bは、展開状態の背紙本体b1における左領域b11及び右領域b12の各上下二箇所に、切断ガイド線sを介して釣鐘形状の離脱可能片b2が設けられたものである。各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3に合致する位置に設けられている。同実施形態の切断ガイド線sは、単一の半円弧スリットs3と、単一の半円弧スリットs3に連続するように設けられ、且つ、全体としてコ字を描くように複数配された直線スリットs2とを主体に構成されている。半円弧スリットs3は、上側の離脱可能片b2における上部に設けられているとともに下側の離脱可能片b2における下部に設けられている。

【0058】

図16に示す背紙Bは、展開状態の背紙本体b1における表側領域b11及び裏側領域b12の各上下二箇所に、切断ガイド線sを介して略正方形形状の離脱可能片b2が設けられたものである。各離脱可能片b2は、表表紙1、裏表紙2及び外側シート3の孔h1、h2、h3に合致する位置に設けられている。同実施形態の切断ガイド線sは、単一のコ字形スリットs4と、単一のコ字形スリットs4に連続するように設けられ、且つ、全体としてコ字を描くように複数配された直線スリットs2とを主体に構成されている。単一のコ字形スリットs4は、上側の離脱可能片b2における上部に設けられているとともに

10

20

30

40

50

下側の離脱可能片 b 2 における下部に設けられている。

【0059】

図17に示す背紙Bは、展開状態における背紙本体b1の上下にそれぞれ切断ガイド線sを介して左右方向に延びた帯状の離脱可能片b2が設けられたものである。同実施形態の切断ガイド線sは、離脱可能片b2における左右の端部に設けられた複数の湾曲スリットs1と、左右の湾曲スリットs1間に設けられた複数の直線スリットs2とを備えたものである。

【0060】

以上に述べた変形例であっても、所期の目的を達成し得るものとなっている。なお、変形例は、図示された具体的なものに限られないものであることは言うまでもない。

10

【0061】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

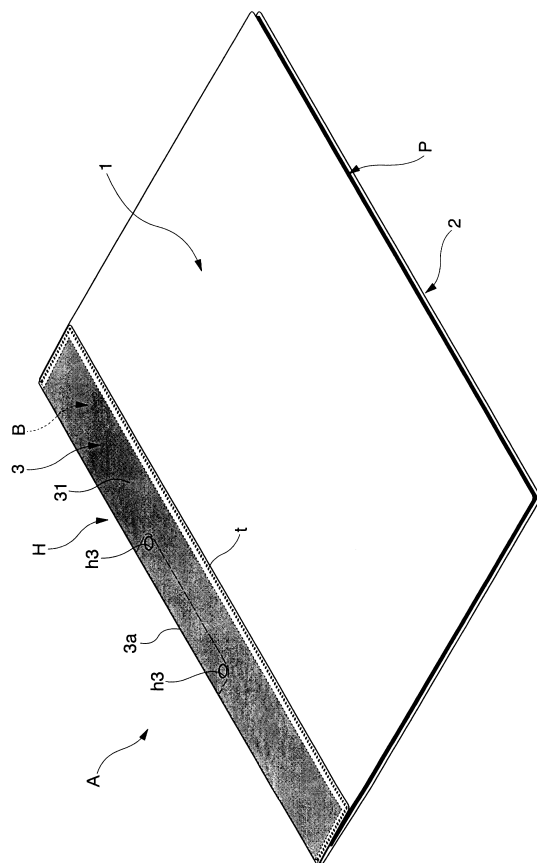
【符号の説明】

【0062】

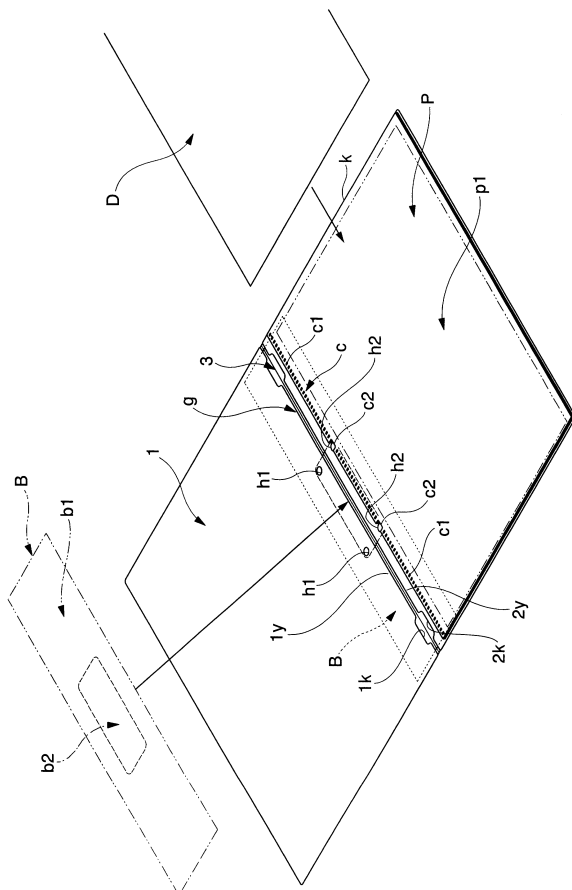
- 1…表表紙
- 2…裏表紙（表紙）
- 3…外側シート
- B…背紙
- b1…背紙本体
- b2…離脱可能片
- H…背紙保持部
- h1、h2、h3…孔
- P…ポケットシート

20

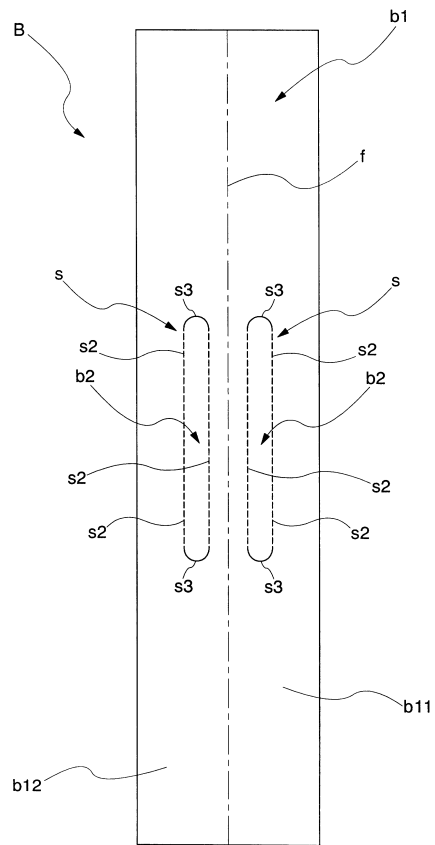
【図1】



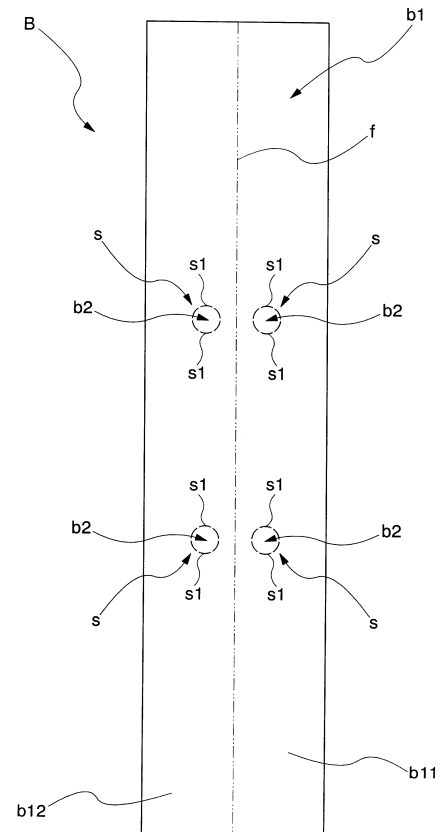
【図2】



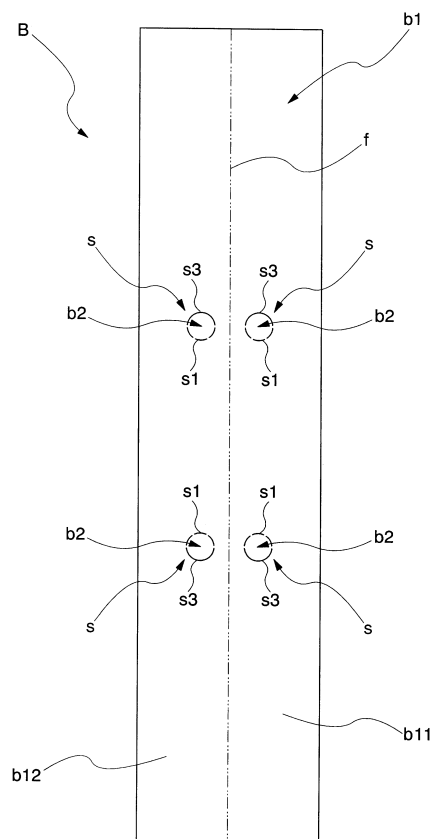
【図 1 1】



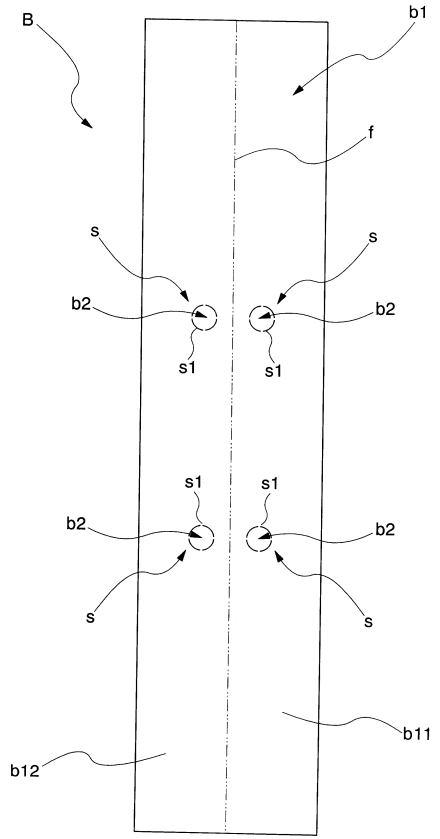
【図 1 2】



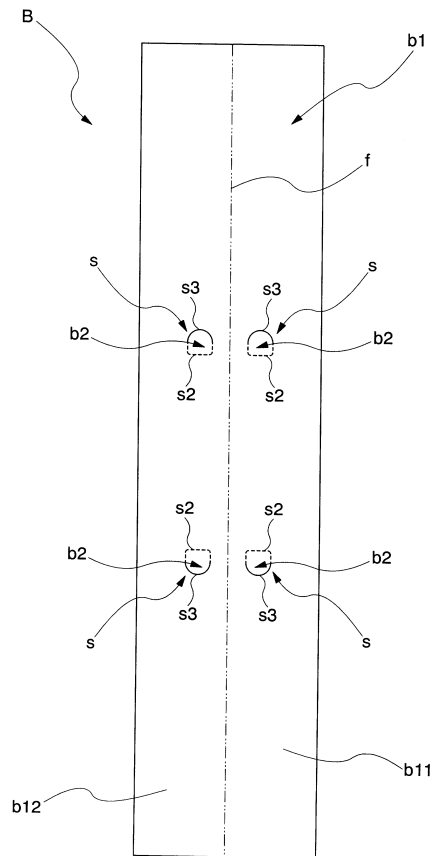
【図 1 3】



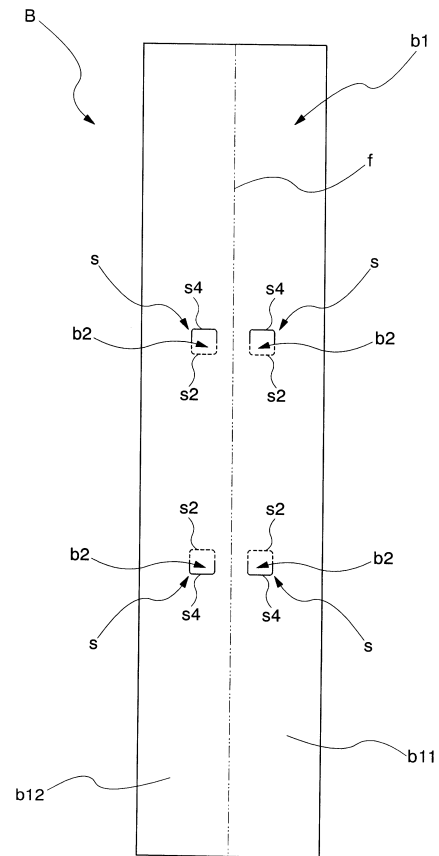
【図 1 4】



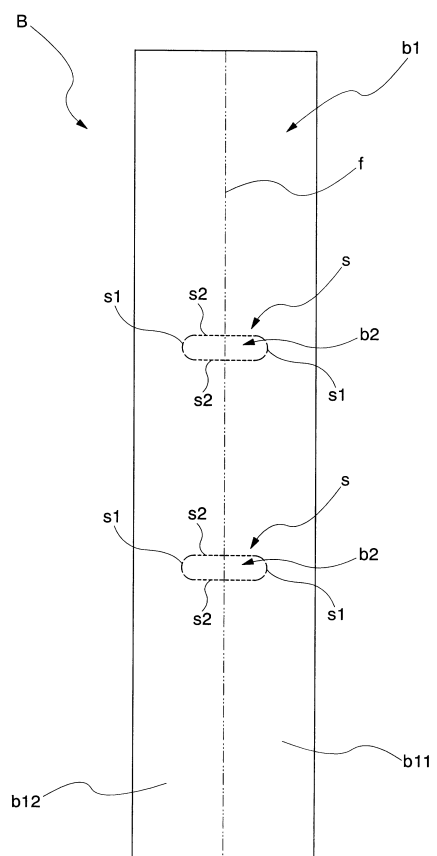
【図 15】



【図 16】



【図 17】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平01-156986 (JP, U)
特開2016-052796 (JP, A)
米国特許出願公開第2014/0126950 (US, A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B42F 1/00-23/00